# 中央家畜市場通信

### 令和6年7月号 ◀

八幡平農業改良普及センター作成

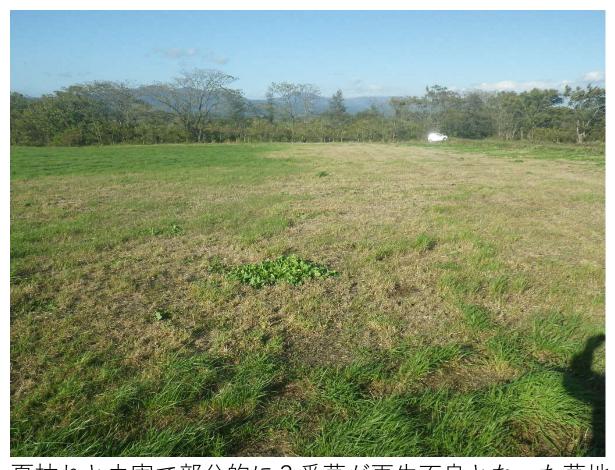


# 猛暑による夏枯れ等で減収、植生悪化事例が多発!

**昨今の温暖化で夏枯れや虫害等により、牧草の再生が低下**するとともに、雑草の 侵入により植生が悪化し、収量低下となる事例が多発しています。

牧草収量を回復させるには、草地更新を実施して雑草を駆逐するとともに新たに 牧草を定着させることが必要です。→詳細は裏面を参照

計画的な資材確保と作業の実施で、夏枯れによる生産性の低下に対応しましょう。



夏枯れと虫害で部分的に3番草が再生不良となった草地 (令和5年10月 八幡平市)



夏枯れ翌年にナズナ等の雑草が繁茂し植生悪化した草地 (令和6年5月 葛巻町)

### 《子牛を大きく育てよう!》~岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから~

マニュアルのダウンロード はこちら→ p 19~24をご覧ください 🛗

夜中の分娩は人の目が行き届きにくく、難産 や**子牛の外亡**事故の**発生リスクが高**まります。 そこで、昼間(一般的に人が活動している6

○ 昼間分娩への誘導について

時~21時頃)に分娩するよう誘導する方法とし て、「夜間給餌法」があります。確実に分娩に 立ち会い、必要に応じて分娩前後の介助ができ るよう実践してみましょう。

#### 夜間給餌法

- □ 毎夕(15~17時頃)に1日分の飼料を給与 ※分娩予定日の2週間~10日以上前から開始 ※昼間に盗食することがないよう注意
- □翌朝、残飼を全て撤去
- □水は不断給与

下の表は、夜間給餌を実践した県内の農場に おける、時間帯別分娩頭数です。

(調査期間: R5.10.1~R6.5.31)

この農場では、**毎日15~16時頃に給餌**した ところ、約75%の牛が昼間(6時~21時)の分娩 となりました。

夜間給餌を実践した県内の農場での時間帯別分娩頭数

分娩時刻	2~6時	6~10時	10~14時	14~18時	18~21時	21~翌2時	計
頭数	5	6	5	11	14	8	49

昼間の分娩が約75%(36頭/49頭中)

※確実に分娩に立会するための取組としては、夜間給餌法の他にも看視 の強化やICT機器の併用などもあります。

### 草地更新時は、除草剤の播種同日処理でしつこい雑草を駆逐し 牧草を確実に定着させましょう!

①収量低下②雑草繁茂③土壌が固くなった場合やルートマット(生きている牧草と死ん でいる牧草の根の層)が厚い(5cm以上)場合は、完全更新がおススメです。

除草剤散布 または掃除刈

- ①ギシギシの古株等が多い場合は、耕起整地の10日~ **2週前**にグリホサート系の**非選択性除草剤を散布** 又は、
- ②掃除刈りは耕起整地の前日までに行う (2番草)

堆肥·土改材散布

**堆肥3~5t**/10a、炭カルは**100~200kg**/10a**を目安**に 土壌診断の結果より投入量を決める

耕起・整地

7月下旬~8月上旬

**播種日の概ね40日前 ボトムプラウ等で耕起後ロータリ**がけ、 またはディスクハロー等で表層攪拌し播種床を形成

この期間に実生からの雑草をしっかり発芽させる!

除草剤散布

播種

は

8月下旬~9月上旬

**雑草が生え揃ったところに**、グリホサート系**非選択性除草剤** を散布(500ml/10aを水50Lで希釈)

播種量(kg/10a)

例) オーチャード2.5 ペレニアルライグラス0.4 白クローバ0.2 除草剤が乾いたあと、ブロキャス等で播種。同じオーチャードでも比較的暑さ に強い「アキミドリⅡ(早生)」「まきばたろう(中生)」がオススメ! 乾草利用の場 合はペレニアルライグラスは入れない。播種遅れる場合は播種量を2割増やす。

施肥

元肥(草地化成484)を窒素で7kg/10a(現物50kg)施用

鎮圧

ケンブリッジローラー等で丁寧に鎮圧 **この工程が更新の出来を左右**します。 **鎮圧が不十分**だと発芽不良となり、雑草が繁茂します。

早い時期の播種や播種後の **気温が高く推移した時**など、 越冬前に牧草草丈が30cm以上 に伸び過ぎた場合は、地表面 **が多湿**となり**雪腐れを助長**す るため、**秋冬期に掃除刈**(集 草して圃場外に持ち出す)す る必要があります。



播種後30~40cmに伸長した圃場 (R5年12月 八幡平市)



伸長・越冬した茎葉が枯死し翌春 の萌芽に影響(R6年4月)